

2024 年度事業報告書

① 子ども支援事業

(子ども第三の居場所事業)

② 中間支援事業

(中間支援活動助成事業)

③ 地域づくり事業

(地域づくり活動NPO事業助成)



特定非営利活動法人

兵庫 SPO 支援センター

令和6年度 子ども第三の居場所 事業報告書

令和7年4月15日

特定非営利活動法人兵庫SPO支援センター

1. 事業計画

(1) 目的

生き抜く力を育む「子ども第三の居場所」を運営する。行政、NPO、市民、企業の方々と協力し、誰一人取り残さない地域子育てコミュニティをつくりことで、「みんなが、みんなの子どもを育てる社会」を目指す。

(2) 目標

- ・2025年3月31日までに一日平均利用児童数を20名にする。
- ・ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供
- ・子どもの「経験の不足」を解消するような定期的なイベントを事業期間内に月1回を目標に実施する。

(3) 事業内容

子どもたちが安心して過ごせる環境で生き抜く力を育むことを目的として、以下の事業を実施する。

1. 兵庫県洲本市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営

- (1) 期間：2024年4月1日～2025年3月31日（週4日、平日14時から19時、土曜10時から14時まで開所）
- (2) 場所：兵庫県洲本市
- (3) 対象：20名（家庭や自身に課題を抱えた小学低学年中心）
- (4) 内容：子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。

2. 事業実績

- (1) 期間：2024年4月1日～2025年3月31日（週3～4日、平日14時から19時、土曜日はイベントを中心に随時開所）
- (2) 場所：兵庫県洲本市
- (3) 対象：10名（登録児童数）イベント時は地域の子どもを含め18名～50名（子どものみの数字）
- (4) 内容：「洲本子ども第三の居場所みらいえ」の活動を通じて、日常的には安心・安全な居場所を提供し、イベントやセミナーを通じて、児童の自己肯定感やコミュニケーション能力を向上させた。加えて保護者向けセミナー等も開催し、共に考え共に「みらいえ」を創っていくメッセージを発信した。

3. 各種取り組みについて

- (1) 通常開所
- (2) ライフスキル学習
- (3) 地域イベント「みらいえフェスティバル」（夏まつり・秋まつり）開催

- (4) アーティストとのワークショップ「アーティスト×みらいっ子」(体験と出会い)
- (5) 保護者向けセミナー「シンポジウム」と「懇談セミナー」
- (6) ハロウィン本町商店街
- (7) まちなか公園プロジェクト

(1) 通常開所

1. 取り組み

- ① 開所日時：毎週火・水・木曜日 14時～19時（食事なしの場合は18時まで）
土曜日はイベント時に随時開所
- ② 場所：当施設（洲本市本町7丁目2-25）
- ③ 通所人数：10名 平均 3名（2025年3月末時点）

活動内容

内容	場所	活動内容
学習	主屋2階 学習スペース	学習タイム 10分×学年 それぞれの課題学習 児童の希望と状況に合わせて 5つのコースを選択して、実施 
遊び・体験 活動・読書 タイム	主屋1階及び 図書室	自由で積極的な活動から、好きなものを見つけて、それを追求していく (トランプ・シルバニアファミリー・工作など) 
夕食	主屋1階	夕食提供（希望者） サポート：県立洲本高校生（月1回程度） 

お誕生日会	主屋1階	その月の子どものお誕生日会 準備・実施：県立洲本高校生	
クリスマス会	主屋1階	クリスマスに合わせて実施 準備・実施：県立洲本高校生	

(2) ライフスキル学習

実施日：2024年9月18日（水）、9月25日（水）、11月6日（水）

2025年1月22日（水）、3月12日（水）

場 所：洲本子ども第三の居場所「みらいえ」

参加者：当施設スタッフ及びボランティア教員

実践は当施設通所児童

内 容：

回	カテゴリー	主な内容
1	みつける	課題分析と明確化
2	つながる	居場所の目標を設定 ライフスキルの理解と教材紹介
3	やってみる	『ライフスキルで育てる ひとりで生きる力！みんなで生きる力！』を実践してみる
4	使ってみる	『ライフスキルで育てる ひとりで生きる力！みんなで生きる力！』を使ってみる&自立のステップ
5	ふりかえる	実践の課題分析と改善策の検討



(3) 地域イベント「みらいえフェスティバル」(夏まつり・秋まつり)

(目的) 地域住民との交流・子どもたちのコミュニケーション能力向上

1. 夏まつり

開催日時：2024年7月27日(土) 10時～15時

場所：洲本子ども第三の居場所「みらいえ」及び駐車場及び商店街

入場者：約120名

内容：オープニング演奏(LIBERREAL)

(各種コーナー) 楽描きコーナー・占いコーナー・五色百人一首コーナー
箸置きストラップづくり・子育て相談コーナー・夏休み宿題お助けコーナー
スーパーボールすくい・輪投げ・的当てコーナー・子どもマルシェ
クロージング：みんなで歌おう



オープニング演奏



的当て



スーパーボールすくい



子どもマルシェ

みんなで歌おう～心をひとつに～

2. 秋まつり

開催日時：2024年11月23日（土・祝）10時～15時30分

場所：洲本子ども第三の居場所「みらいえ」及び駐車場及び商店街

入場者：約100名

内容：オープニング演奏（蒼開中学校高校ジャズバンド部）

（各種コーナー）バルーンアート・スーパーボールすくい・緑のじゅうたんコーナー

美文字レッスン・クリスマス飾りづくりコーナー・子どもマルシェ

子育て相談コーナー

クロージング：「心のうた」声楽・安永郁子氏



オープニング演奏

スーパーボールすくい

美文字レッスン



クロージング「心のうた」 声楽・安永郁子氏

クリスマス飾りづくり

(4) アーティストとのワークショップ「アーティスト×みらいっ子」

(目的) アーティストと共に作品づくりを行い、自分の好きと出会い、可能性を伸ばす。

1. ワークショップ 手作り教室「身近な素材×鉄でアクセサリーを作ろう！」

開催日時：2024 年 7 月 11 日 (木) 17 時～18 時

アーティスト：moi.toi.宇城基さん (アクセサリー作家)

場 所：洲本子ども第三の居場所「みらいえ」ギャラリー

参加者：4 名

内容：身近にある物を材料に、はさみを使ってアクセサリーにします。



2. 陶芸ワークショップ「世界にひとつだけのうつわを陶芸の講師と一緒につくってみませんか」

開催日時：2024 年 12 月 4 日 (水) 16 時 30 分～17 時 30 分

アーティスト：福留春菜 氏 (陶芸家)

場 所：洲本子ども第三の居場所「みらいえ」ギャラリー

参加者：7 名

内容：土の状態からかたちにして、焼き上げます。



3. 増田薫さんの似顔絵教室

開催日時：2025 年 2 月 1 日（水）13 時 30 分～15 時

アーティスト：増田薫 氏（画家）

場 所：洲本子ども第三の居場所「みらいえ」主屋 2 階 学習スペース

参加者：9 名

内容：似顔絵を描くポイントやちょっと可愛らしくキャラクターチックに描けるコツを教わりました。



(5) 保護者向けセミナー（シンポジウム・懇談セミナー）

（目的）不登校や発達特性を持つ子どもを抱える保護者及び支援者に対して、共感と希望のメッセージを送ると共に、課題解決に向けた具体的な取り組みのヒントを提示する。

1. シンポジウム「発達特性がある子どもとの学び合い・育ち合い」

開催日時：2024 年 11 月 9 日（土）13 時 30 分～15 時 30 分

講 師：医療福祉の現場から松下徹 氏

学校の現場から津田泰至 氏

当事者でADHD専門サポーターから宮下瞳 氏

場 所：洲本商工会議所 2 階多目的ホール

参加者：10 名

内容：子どものちょっとした行動や言動から、不安を感じる保護者を対象に、子どもの特性を理解し、どのように対応したらよいかを伝えました。



2. 不登校を考える～中谷恭子先生を囲んで～「子どもの自立支援 つながりを育てるために」

開催日時：2025 年 2 月 11 日（火・祝）13 時 30 分～15 時 30 分

講 師：中谷恭子 氏

兵庫県精神保健福祉センター

場 所：洲本子ども第三の居場所「みらいえ」主屋 2 階

参加者：10 名

内容：不登校等で悩む保護者向けに懇談的に話をして、そこで出た具体的なアドバイスを参加者で共有しました。



(6) ハロウィン本町商店街

（目的）洲本子ども第三の居場所「みらいえ」は商店街の一角にあります。ハロウィンイベントを通して、商店街を回り子どもたちを知ってもらおうと共に、地域で子どもを支える環境を醸成します。

開催日時：2024年10月30日（水）16時30分～17時30分

場所：洲本子ども第三の居場所「みらいえ」及本町商店街

参加者：18名（地域の子どもを含む）

内容：仮装の衣装を「みらいえ」で作製し、当日は事前に協力を申し出ている商店を回って、お菓子をいただきました。



(7) まちなか公園プロジェクト

（目的）母子公園を明石工業高等専門学校生と「みらいえ」の子どもたちと一緒に創っていく体験を通して、共同作業の手法と、まちの課題を解決するという目的を待つことで、自己肯定感を高め、考える力を育みます。

開催日時：2024年12月～2025年3月

「母と子のみらいえ公園」オープンイベント 2025年3月22日（土）

場所：洲本子ども第三の居場所「みらいえ」前の駐車場1台分を公園にした。

参加者：「みらいえ」の子ども9名+明石高専生5名

内容：国立明石工業高等専門学校生が「みらいえ」の子どもたちに寄り添うかたちで、企画から進め、最終「みらいえ」の子どもたちが描いた絵のパネルを貼って完成させた。



4. 事業総括

(1) 背景

社会で「孤立」と「格差」が進んでいる。

行政や企業、既存の機関だけでは、新たなニーズに対応できず、「孤立」が進んでいる。

「助けて」と言えない空気のなかで、なによりも「つながり」の希薄が解決を難しくしている。

(2) 経緯

「地域で地域を支えるしくみをつくる」として、2017年に法人を立ち上げ、2020年に「地域で孤立する子どもを見守り支える」として、「蔵の子ども図書館」を開設、昨年より日本財団の「子ども第三の居場所」事業に取り組むことになった。

同事業を受託できたことで、具体的なかたちで「孤立」を解決していくアプローチとプロセスを描くことができています。

(3) 事業の成果

昨年の2月に洲本子ども第三の居場所「みらいえ」の事業がスタートし、「この場所があって助かった」という不登校児童の家族の声や、「みらいえに行くようになって、明るくなった」との学校側からの声をいただけるようになった。

この1年、子どもたちは多様な取り組みやイベントを通じて、地域に関わり、人と関わり、自己肯定感、コミュニケーション能力、考える力を育むことができたと考えています。

また、行政や地域の各機関との連携は、代表が洲本市の事業に専念できる体制となったことから、連携を深めていくことができたと考える。

(4) 課題

通所児童数が10名と伸び悩んでいる。「この施設の取り組みや良さが伝わっていない」「存在自体が知られていない」など、「伝わっていない」現状がある。

また、寄付のしくみづくり、自主事業の確立なども急務と考えるが、運営以外の時間の確保が難しい側面があった。

2024年度は、これまで担っていた西脇市の事業等の整理もあり、事務量が多かった面もある。会計業務も外注とする体制をとったが、効果的なやりとりの確立には時間がかかり、2025年度は改善できると考えている。

中間支援活動助成（基本事業）

特定非営利活動法人兵庫 S P O 支援センター

事業名：働いている人・遠隔地の人のための N P O 等支援窓口

ー 淡路島の間接支援ー

1. 事業概要

平日（月・金）及び日曜・祝日を含め、相談者の都合に合わせて、洲本を拠点にしながら淡路島島内の出張相談に対応し、ネットワークの構築、情報提供、人材育成、書類作成指導等を実施する。さらに地域の身近なところで中間支援機能を定着させるために、レファレンス機能を持つ図書館と連携した取り組みを行う。

2. 事業項目と成果

① 相談業務（相談拠点及び出張相談）1 月末現在

相談	情報提供・ネッ	人材育成	書類作成指導	休日相談	出張相談
13	1	2	3	7	6

- ・相談者へのアドバイスで社会起業家意識を高め、具体的な
「海ほたるショー」がテレビでも取り
淡路島の新たな観光として注目を集めた。



相談とし
上げられ、

- ・5 年ほど前からアドバイスしてきた地域住民による室津の
プロジェクトが「ほくだん夕映えの駅 しゃんとか市場」として 2025 年 3
月下旬オープン。

道の駅プ
2025 年 3
月下旬オープ

② 図書館との共催事業「まちづくりネットワーク交流会」

図書館をまちのプラットフォームとして、まちで活動する C B ・ S B の団体や人とまちの
人をつなげる取組み

洲本市洲本図書館 10 月 20 日（日）「画家・増田薫さんのこれまでと
これから」（参加者 40 人）

- ・地元出身の画家・増田薫さんと市民とのつながり。淡路島テレビジ
ョンでも放映



淡路市立津名図書館 1 月 19 日（日）「土X〇〇=WELL-BEING を創る」（参加者 16 人）

- ・2023 年に「土のミュージアム SHIDO」をオープンさせた濱岡淳二さんと市民とのつなが
り

③ 調査研究「図書館×まちづくり」リーフレット作成

これまでの会議と広がりをもとめたリーフレットを作成し、令和 6 年度全国
公共図書館研究集会で配布。当日、一緒に取組んできた元
淡路市立東浦図書館長の細川量子氏が「まちづくりネット
ワーク交流会」にも触れながら取組を説明。



地域づくり活動NPO事業助成

特定非営利活動法人兵庫SPO支援センター

事業名：洲本市に子どもプラザをつくる

一 地域に子育てを応援・サポートする場づくり

3. 事業概要

「子どもプラザ」機能を持った「場」をつくり、子育て世代の憩いと拠り所になる企画とイベントを実施する。

4. 事業項目と成果

① 「こどもプラザみらいえ みらフェス」の開催

開催場所：洲本子ども第三の居場所みらいえ及び洲本本町商店街
県立洲本高校生、みらいえ利用の子ども及び保護者、洲本市こども家庭センターが共催

2回のフェス開催を通じて、イベント時だけであるが、いわゆる「こどもプラザ」をつくることができ、地域に「こどもプラザ」への期待を高めた。

・7月27日「みらフェス 夏まつり」(参加者：120名)

楽描き・占い・五色百人一首・箸づくりストラップづくりワークショップなどの楽しめるコーナーに加えて、子育て相談コーナーを設置。最後は「みんなで歌おう～心をひとつに～」で大合唱した。

・11月23日「みらフェス 秋まつり」(参加者：100名)

蒼開中学高校生によるジャズバンド演奏でオープニング。美文字レッスン・クリスマス飾りづくり・子どもマルシェなどのコーナーに加え、夏フェスと同様に子育て相談コーナーを設けた。

② 体験講座「アーティストXみらいっ子」の開催。

会場：洲本子ども第三の居場所みらいえ

第1線で活躍するアーティストと一緒に作品づくりを行うことで、子どもたちは「好き」と「生き方」に出会うことができた。

・7月11日「身近な素材X鉄でアクセサリ作ろう！」(参加者：4名)

アクセサリ作家：宇城基さん

・11月23日「心のうた」(参加者：10名) 音楽家：安永郁子さん

・12月4日「陶芸ワークショップ」(参加者：7名) 陶芸作家：福留春菜さん

・2月1日「増田薫さんの似顔絵教室」(参加者：9名) 画家：増田薫さん

③ シンポジウム「発達特性がある子どもとの学び合い・育ち合い」(

開催日時：11月9日参加者：8名)

会場：洲本商工会議所多目的ホール

講師：新淡路病院・松下徹氏 淡路市立一宮小学校教諭・津田泰至氏

ADHDライフデザイン研究所・宮下瞳氏



発達特性を持つ保護者向けに、子どもの特性をどう理解し、対応してくのが良いのかを医療・学校・当事者のパネラーを通じて、理解と安心を与えるシンポジウムとなった。

④

「まちなか公園プロジェクト」

・第1回「まちなか公園プロジェクト」ワークショップ（参

加者：13名） 開催日時：12月11日

会場：洲本子ども第三の居場所みらいえ



子育て中の親子がつながりやすい「場」として、まちなかに公園をつくる。新たなまちづくりの視点として「つながる公園」を明石高専生と子どもと一緒に作った。

